

(陳受24第1号)

避難誘導標識の設置推進に関する陳情

受理年月日	平成24年1月13日
陳情者	西久保1-38-5 特定非営利活動法人 都市環境標識協会 代表理事 小関 長一郎 ほか30名

陳情の要旨

世界中で最も地震が多発する我が国における大震災時の案内標識は、従来から、交通標識のように統一された標識が必要とする思想が欠落し、各地方公共団体独自の事業として経過したことと、国や都道府県庁ともに、リーダー役を果たさなかつたため、仕様、デザインは千差万別で設置されており、万一のときには全く役に立たないと言われております。

先の阪神淡路大震災時において、パニック状態の人々には、足をとめて確認が必要な地図型式の標識では全く機能しなかつたことが報告され、さらにそれぞれ違った多情報装置は、設置、運営、経費上からも、目的に特化した表示手法に劣り、特に災害時には役に立たないと大半が撤去されています。このような事態を改善するため、消防庁は平成13年6月に、避難行動に特化した全国統一仕様デザインでの誘導標識の必要性を呼びかけ、今日に至っております。

国が指摘した後、各地方公共団体のいずれからも統一の声や提案がなく、情報不足のためか、国の指摘を無視した状態が続いております。

上記の現状を改善するため、当NPO（非営利活動法人 都市環境標識協会）は、統一するにふさわしい避難誘導標識の仕様、デザインを作成し、総務省、消防庁並びに国土交通省の理解が得られたことで、47都道府県庁に諮ったところ、反対は全くなく、当NPOの統一避難誘導標識推進の趣旨に賛同され、今日に至っております。ちなみに、統一標準様式の価格は、1本当たり約60万円で、3駅南北計6本の設置には、約360万円が必要です。ほかに、ソーラー夜間照明標識は、1本当たり約110万円となっております。

当NPOは上記に基づく、仕様、デザインをもとに、整備促進活動のため、パンフレット作成の補助金を武蔵野市にお願いしたところ、費用の一部を支給していただいたため、必要とする各都道府県庁並びに市区町村に配布しました。普及活動の結果、鹿児島県、岡山県、三重県、愛知県、千葉県、埼玉県、東京都等で採用され成果を上げることができ、さらに採用しようとするタイミングをはかっている自治体の現状が続いております。

平成23年7月14日第38回市民と市長のタウンミーティング開催時に、市長、防災安全部長、防災課長が出席され、市民の統一避難誘導標識についての質問に、市長は「避難は市域を越えていくので共通サインが必要」と回答

し、同報告書に明記し、統一避難誘導標識の推進の回答をしました。

武蔵野市内で創設した当NPOの活動事業が全国的に拡大の方向にあり、在日主要大使館にもアンケートを依頼した結果、当NPOの仕様、デザインに高い支持が表明され、世界的にも通用する標識であることが証明されました。

東京都と協議の結果、統一避難誘導標識推進手法として、①本統一標識を行政予算で執行する場合、標識下段枠は、防災スローガン、観光案内等で活用する、②行政予算の確保が困難な市区町村は、民間協力を得て下段に名称を表示し、企業や団体等の協賛金を活用する、という上記2案で全国的に統一された標識の推進が可能となり、平成15年7月発行の東京都公報に都条例改正を掲載し公表しました。

上記の事実を確認した東京都市長会では多摩地区全体で、統一避難誘導標識の設置推進が合意され、平成18年に、八王子市、町田市、福生市で設置を開始し、新宿区、杉並区にも拡大しています。

吉祥寺駅周辺は、他市からの来訪で発展してきました。来訪者が日ごろ見慣れている統一避難誘導標識が吉祥寺でも、見られることに親近感と安心感を持つことは、容易に想像がつくことであり、市民においても居住地、勤務地、外出先の違い、旅行中等における避難行動において、全国統一避難誘導標識がどこでも確認できるとすれば、これ以上の安心はないと思われま

す。以上の趣旨から、避難誘導標識の設置推進について、市内JR三駅周辺から設置を始め、市全域へ早期に整備されることを願い、陳情いたします。